

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370104998		
法人名	(株)SHメイカル		
事業所名	グループホームかえで		
所在地	岡山市南区松浜町7-34		
自己評価作成日	平成30年12月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成31年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

これまで積み上げてきた経験と実績を、重度化する利用者の方の対応に活かせるようになってきたのではないかと感じています。日々変化する状態から、近い将来、その先の将来について、具体的な事例を挙げながら説明し、ご家族にじっくり考えてもらう時間を作ってあげられるようになってきたことを実感しています。利用者様の求めるニーズが多様化している中、それに対応するための他職種の連携に取り組んでいます。母体を病院に持つ強みを活かして、各専門職から指導をいただき、利用者様の生活機能の維持・向上を図っています。職員にとっては、専門的な知識を得ることで日々提供するサービスの質を向上させることにつながっています。新しくお迎えした利用者様のご家族様から、「かえでで笑顔で毎日過ごしている様子を見て、とても安心しています」というお言葉をいただきました。これからもかえでの理念である「個々の能力を活かした温かいケア」を実践していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの玄関に入ると一番に目に入るのは十数枚のホーム恒例餅つき大会の合成写真。地域のAさんの力作だ。地域の大人も子供も共に楽しむこの風景は「かえで」がこの地域に確実に受け入れられたあかしと言えるだろう。少し前の「かえで」は利用者の重度化が一気に進み、家族と共に愛する人を何人も看取る経験をした。それが今日のリビングには「この方、本当に利用者さん？」と見紛う人がいたり、笑いが止まらない人に釣られて職員や私達まで笑い上戸になる空気に変化している。開設以来悲しかった事・嬉しかった事を、利用者とその家族と共に乗り越えてきた。家族からも心からの感謝の言葉が伝えられている。百歳まで自分らしく過ごしたKさんの曾孫ちゃんが、今も月1回、訪問して皆と一緒に歌を歌ってくれている。Kさんは空からどんなに喜んでる事だろう。「かえで」は、この様に本人・家族との絆、地域の方々との絆の深いホームと思う。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度の初めには事業所理念と事業所の年間目標を、全ての職員が共有し、職員一人ひとりが目標を掲げて実践につなげている。	この法人では理念の共有と実践については綿密なシステムを調べており、評価し合う事も怠る事はない。さらに数社で実践し続けている「改善コンクール」の取り組みが、この理念の共有や、より具体的な実践に大きく寄与している。	理念の共有と実践に貢献していると思われる毎年の研究発表は、今後も日々のケアにつながる地道な方向を継続して欲しい。「あなたの事をもっと知りたい。好きになりたい」という、かつてのキャッチフレーズが、今も未だ心に居り続けている事が素晴らしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅街の中にある施設なので、日常的に地域と交流できるように、利用者とともに積極的に地域に出るようにしている。地域のサークルに参加したり、施設の行事に来てもらえるように声をかけている。	近所の方から野菜を戴いたり、近くの子供達が遊びに来て利用者とパズルを楽しむ一方、職員と一緒に周辺のゴミ拾いをして近くの人と挨拶やおしゃべりをする利用者もいる。町内の行事・ホームの行事にお互いに参加し合う良い関係が築かれている。	並木町・松浜町とのつき合いがホーム開設以来年々深まり、このホームの重要な理念の一つである「地域密着型サービスを」が実現している。町内の老人会で計画している勉強会でも職員の協力が求められる。今後もこの交流を深めて下さい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方と交流できるような行事や、消防訓練の協力などを通じて、施設の中へ入ってもらう機会があったり、地域の方に向けて認知症の人の理解や支援の方法を伝える機会を計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加していただいたときに、現状を見ながら利用者やサービスの実際を知ってもらい、新たな視点で助言や提案をしていただいたことをサービスの向上に活かすように努めている。	2つの町内会の役員・利用者家族・平日実施の時は地域包括職員が参加して、ホームの行事や研修等も組み入れながら運営推進会議を定期的実施している。以前の利用者家族の参加や近所の人の参加もあると聞いた。	この会議の主要な目的は参加者の話し合いをホームの運営やサービスに活かす事なので、別途に実施している「家族会」の話し合いの内容と合致する時には、会の在り方を検討し直しても良いのではないかと。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者の方とは、なかなか都合が合わず参加していただくことが難しい。消防職員の方には訓練時に立ち会っていただき、施設の実情を踏まえた助言をもらって、協力をお願いしている。	運営推進会議をこのホームの方針として土・日に開催する事が多いので、市町村の職員との連携や情報交換が十分出来ているとは言いがたい。しかし、介護保険関係等で分からない事や困った時には相談しようと思っている。	市町村との連携を今後今まで以上に密にしていこうと考えているので、とりあえず、運営推進会議に参加していただける時には、質問を準備しておいて多くのアドバイスを戴き、記録しておいて下さい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会のメンバーを中心に、新人職員を含め全ての職員が身体拘束について正しく理解するための勉強会を年に2回行うことで、日々のケアの中で起こりがちなスピーチロックやその他身体拘束についても、振り返る機会を作っている。	法律で禁止の対象となる具体的な事例はないが、定期的に勉強会をして、止むを得ない場合の手続きや留意点の学習をしたり、柵ひとつにしてもあらゆる工夫を話し合うようにしている。「ちょっと行てきます」の人には、可能な限りつき合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止対策委員会のメンバーを中心に、定期的に勉強会を行い、虐待が見過ごされることがないように互いに注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての勉強会に全員が参加できているわけではなく、知識も十分とは言えない。必要性がある場合に備えて改めて学ぶ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族に十分な説明を行い、理解・納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス向上委員会のメンバーを中心に、利用者・家族へのアンケートを実施。改善が必要な場合は対応し、結果と改善内容について、報告を行っている。	利用者・家族が意見や要望をホーム側に直に訴えにくいかもしれないので、独自のアンケートを定期的に実施している。家族会でも多くの参加があり、アンケートや家族会から出た意見を運営やサービスに反映させている。	9家族・12名参加といった家族会もあるので、今以上の効果を期待出来ると思う。報告も必要だが、家族同士の話し合いも良い。そして何より家族の声のメモが欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の話し合いを行っており、参加できない職員は、事前に意見提案書を提出することで、意見を出したり業務その他について提案をすることができる。また、年に2回の個人面談を行って個別に話をする機会を設けている。	法人として職員が各自で研鑽を積み評価する仕組みを踏襲すると共に、運営やサービス向上に関する話や個人的な相談に耳を傾けるチャンスを作り、部長や管理者が対応している。また日常的にも気軽に何でも話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間通して職員個々の努力や実績などを評価し、賞与などに反映させている。やりがいや向上心を持って日々の業務に就けるように、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や勉強会に関する情報をファイルにまとめ、職員がいつでも知ることができるようにしている。必要に応じて参加への声掛けを行っている。日々の業務の中でも、ケアの改善ができるように指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年他事業所と共同して、改善コンクールを行っており、他事業所の取り組みからヒントを得て、サービスの質の向上に繋げられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が思いや要望を表出できるように、職員は接し方や言葉遣い、環境づくりに配慮して、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がどのようなことに不安を感じているのか、困っているのか、要望や意向を遠慮なく言っていただけるような関係づくりに日々努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な方面から情報を収集し、本人と家族が「その時」必要としている支援が何かを見極め、他職種と連携しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の思いを尊重し、必要なときに手をさしのべ、能力を活かして役割を持ってもらうなどして、共に支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の、家族を思う気持ちをしっかりと伝えて、本人と家族の絆が途切れることのないように、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人が面会に来やすいような環境作りや、家族との外出や自宅への訪問など、家族の協力も得ながら、また協力して下さる家族の不安が軽減するような支援に努めている。	家族・知人・友人の面会も多く、職場の元同僚が来て楽しい時を一緒に過ごす人もいる。どんな時でも職員は訪問者には必ずお茶を出すのがこのホームの習わしであり、「ゆっくりして下さい」というメッセージと聞いた。もてなしの心で馴染みの関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の関わりの中で、職員は一人ひとりの性格や利用者同士の関係を把握し、時には職員が関係を取り持つことで、円滑なコミュニケーションの支援をし、互いに支え合っているということを認識できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、本人・家族の不安な思いに寄り添えるように、相談や支援に努めている。利用者が永眠という形でサービス利用が終了した場合でも、その家族との関わりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望に添えるように、職員間で話し合い、家族とも協力しながら支援している。思いや意向を表出しやすいような環境づくりに努めている。	以前制作したという自作の絵を寄贈したいと申し出た〇〇さんの油絵3枚がリビングや玄関に飾っており、本人の満足感にしっかり応えている。利用者アンケートをして、答えを選びやすいように工夫する等、意見や要望にも耳を傾けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時はもちろんのこと、入居されてからも日々の関わりの中で以前の暮らしについて、本人・家族から聞き取りを継続し、本人らしく生活できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、職員それぞれが関わりの中で気付いたこと、発見したこと、何か変化があった場合など、確実に全職員で共有できるように記録に残して現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限り本人の思いを引き出し、家族や他職種の意見を反映して、現状に即した、また達成できそうな目標を掲げながら、介護計画を作成している。	ケアプランをより分かりやすく、日々のケアに反映するためにデイリーモニタリングを作成している。また、プランの更新時期が近づくと本人・家族の要望をしっかり反映したケアプランを作成する為に、よく話し合っ本人・家族の意向確認をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	デイリーモニタリングシートなどを活用して、日々提供するサービスを意識し、実践・結果などをこまめに記録することで、情報の共有と介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する利用者の状態や、家族の状況・その時の思いに柔軟に対応し、それに伴って多機能化するサービスも職員間でしっかり共有できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は十分ではないが、一人ひとりの能力に添った地域資源を活用して、豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関を受診するときは、日常の様子分かるように情報提供書を作成したり、内服中の薬などを共有できるように支援している。	拘縮等利用者の医療ニーズが年々高くなってきており、母体が医療機関である利点を生かして、訪問診療はもとより、今年度からは母体病院のPT・OTの訪問や皮膚科医の往診、管理栄養士に助言・指導もしてもらっており、医療と介護の連携がしっかり出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者についての情報や、ちょっとした異変について、その都度施設内の看護師や、訪問看護師に報告・相談して、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、安心して治療できるように病院関係者への情報提供を行い、退院に向けてスムーズに対応できるように連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまでの看取りの経験を生かし、早い段階から現状と今後予測される状態を説明し、本人・家族が時間をかけて意向を決められるように何度も話し合いを行っている。決まった方針についてはチームで共有して総合的な支援を行っている。	これまで十数名の看取りを実施してきたホームであるが、この1年間に6名もの人を新たに見送った。「最期はここで」と希望した人が病院から退院して2日後に亡くなった例もある。「最期までその人らしく」を大切に支援する職員の姿勢に家族からの感謝の言葉が途切れることはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回以上、委員会のメンバーを中心に、急変や事故発生時の対応についてのデモストを行ったり、マニュアルを確認するなどして備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、様々な災害を想定した訓練を行っている。その際町内の方にも参加していたり、訓練の実践に加わってもらっている。	消防避難訓練のうち、年1回は消防署員の立ち会いの下で実施しており、回覧版を回し町内の人にも参加してもらっている。昨年タバコの火を投げ込まれる被害に遭い消防署に相談。燃えやすい物を人目につくところに置かないように撤去した事もあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症についての勉強会を定期的に行い、利用者の人格を尊重すること、声掛けの仕方や対応について学び、実践している。	恥ずかしくないようにしているか？入浴で困ることはないか？等、職員のトイレ、風呂介助への気遣い等に関する利用者アンケートをして、自尊心やプライバシー、羞恥心に対する配慮を欠かさないように、職員は常に意識しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、利用者が思いや希望を表出しやすい環境作り、関係作りに努め、自己決定できるような声掛けを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のペースを尊重し、その日をどのように過ごしたいかを、時には提案しながら希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣は利用者を選んでもらえるように支援している。利用者自身が整容できるように支援したり、化粧水やクリームの使用など、自宅での習慣を継続できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずの盛りつけや、配膳、洗い物など利用者と一緒に行っている。誕生日などの特別な日には、その方の好きなものを聞き取りして、楽しみにしていただけるように支援している。	台所から漂う食事の匂いや調理の音が五感を刺激し、エプロン姿の利用者が職員と一緒に楽しそうにお手伝いしている場面やテーブルで小皿に取り分けている人もいる。食事形態も様々であるが、同じテーブルで一緒に食べながら利用者同士、職員との会話も弾んでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事があまり進まない方には、家族と相談して本人の好みの物を用意して都度補うなど、一人ひとりの好みを把握して、しっかり摂っていただけるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でケアが出来る方、声掛けが必要な方、仕上げが必要な方、特別な用具を用いてのケアが必要な方、一人ひとりの状態や能力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	新たに入居された方の排泄状況を把握し、紙パンツから布パンツへの支援ができた。トイレでパットの交換を自分でされる方には、使いやすいようにトイレ周りの環境を整えている。	男性利用者の場合、本人のこれまでの習慣を尊重する為にトイレ周りの環境整備を行い、定期的に本人と相談しながらより良い方法を見つけていくような支援をしている。最近ではトイレ座位での支援が定着しつつあると聞いた。個々の排泄リズムを把握し、声かけや誘導をして排泄の自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳で便秘を予防出来る方を把握していたり、日常的に運動できるように働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状では決められた入浴日に入っていたかくことに不満の声は聞かれないが、自宅での習慣から、就寝前に入浴を希望される方がおられ、その要望には応えられていない。	週3回を基本としているが、体調不良を主張して拒否のある人には無理強いせず家族と相談しながら色々な工夫をしている。以前拒否が激しかった人も今は入れる状況であると聞いた。二人介助やシャワー浴の人もいるが、殆どの人は浴槽に浸かってゆっくり入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣に添った時間に就寝できるように支援している。鍵をかけて休みたい方にも応じ、安心して眠れるように支援している。日中は、利用者の体調や状況に応じて横になって休む時間を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の目的や副作用、用法や用量について誰もがいつでも確認できるようにファイルにまとめている。内服薬に変更があった場合は、職員全員が共有し、症状の変化を観察して記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、家事をすることを役割と感じている方や、日用品や菓子を買っていくことを楽しみにしている方がいたり、編み物や塗り絵などに取り組む方もおられ、一人ひとりに添った支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など、その日の希望に添った支援をしている。また、家に物を取りに帰りたいという要望にも、家族に協力してもらって応えている。	利用者も自立度の高い人が増えたので、入居者アンケートの結果を踏まえ、利用者の好きな所、行きたい所へ出かける行事企画を作って、もっと外出の機会を増やそうと取り組んでいる。ゴミ拾いを兼ねて散歩したり、「ちょっと近くの公園に」のお出かけは日常的であり、その他の外出支援もよくしている。	マンパワー不足で外出支援が難しい場合は、遠慮せず家族にその役割を担ってもらい、協力を仰いで外に連れ出してもらい、仲間を引き入れる工夫も必要であり、結果的には家族の満足度アップにつながるだろう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお財布を預かっている方は、買い物に出る時に渡して自分で支払いができるように支援している。利用者自身がお金を管理している方もおり、買い物へ行きたいという要望にその都度応えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連絡を取りたいという利用者が増え、家族にも電話をかけることについて快諾いただいているので、要望があったときはその都度応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔を保ち、落ち着いて生活できるように努めている。また、季節を感じられるような花を飾ったり、壁面の飾りを一緒に制作するなど工夫している。	リビングの一角にある畳コーナーでは利用者と職員が掛布団のカバー掛けを仲良くしているし、午後は楽しい笑い声がリビングに響き余暇活動を楽しんでいた。壁に展示してある作品や写真からも日頃の活動がよく伝わってくる。ソファや椅子に座ってテレビを見たり、おしゃべりをする等、それぞれが思い思いに過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には一息つけるようなソファや畳スペースもあり、思い思いに過ごせるように工夫している。テレビ前のスペースは、互いに気持ちよく過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、家具や持ち込まれた馴染みのものなどの配置して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自室を案内してくれた〇〇さんの部屋には、長年大切に使い続けている鏡台があり、引き出しの中には愛用の化粧品。家族の写真に囲まれている人もいる。皆それぞれに、これまでの生活習慣や家庭に近い環境作りをして居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バギー車や車椅子を使用している方も安全に過ごしていただけるように、家具などの配置を工夫している。ホール内を歩行訓練される方もいるので、危険な物は置かないようにしている。		